

最優秀賞

交通事故とスマートフォン

大刀洗中学校 3年 近藤 芹那

私の父と兄は、仕事でトラックに乗っています。なので、交通事故の話について、耳にする機会が多いです。

先日、父は夜中にトラックを運転していました。その時向かい側から来たトラックが車線を超えて、父の方に走ってきたそうです。対向車の運転手は、スマホを使っていたそうです。父は、危機一髪よけて、難を逃れることが出来ました。しかし、「道幅が狭かったら」「父が対向車に気付くのが遅かったら」もしかすると、父は事故に巻き込まれていたかもしれません。

現代では、スマートフォンが普及し、自分でも気づかぬ間に、スマートフォン依存症になっているかもしれません。まだ、車を運転出来ない中学生の私達もそうです。友達と待ち合わせをしているとき、自転車を運転しながら、スマートフォンで連絡をとり合っていないか。スマートフォンを使うことで、運転よりもそっちに集中します。集中したら視覚も聴覚も奪われてしまいます。視覚や聴覚が奪われるという状況を想像できますか。例えば、視覚を奪われると自分に向かってきている車に気づかなかったり、聴覚を奪われた場合は、「そこ、危ないよ。」という合図のクラクションが聞こえません。また、歩行者の存在に気がつかず、自分が加害者側になる可能性も高いです。「自転車でぶつかったとしても、軽い怪我ですむでしょ。」と思っている人も多いのではないのでしょうか。自転車とぶつかってもかすり傷ですむ場合もあると思いますが、ぶつかった際に歩行者が車道に倒れこんだとしたらとても危険です。かすり傷だけでは済まされません。自分達がした一つの行動で命を奪ってしまう可能性もあるのです。

スマートフォンでの脇見運転は、交通事故の要因の2位となっています。あなたが脇見運転をすることで、たくさんの人の命が危険に脅かされます。そして、たくさんの人が悲しみます。自転車や自動車が使い方によっては、人の命をさも簡単に奪える凶器だということを理解して使用してください。

また、運転中でのスマートフォンの使用は我慢してください。どうしても使わないといけない場合は、安全なところに停止して使用することを心がけてください。便利な物を私達のルール違反で悪い物とにならないように使用していきましょう。